

プレスリリース 2022年6月7日(改訂版)

## 写真史家・金子隆一氏を追悼する展覧会を開催

展覧会名：写真史家・金子隆一の軌跡

会場：東京都渋谷区恵比寿 1-18-4 NADiff A/P/A/R/T

MEM (3階)、NADiff a/p/a/r/t (ナディッフアパート、1階)

会期：2022年6月28日(火)－7月31日(日)

入場料：無料

営業時間：

MEM | 13:00–19:00 月曜日定休 (月曜日が祝休日の場合は営業し、翌平日休業)

NADiff a/p/a/r/t | 13:00–19:00 月、火、水曜日定休 (7月18日(月・祝)は営業)

### 展覧会概要：

○日本写真史に先鞭をつけた金子隆一の軌道

昨年6月30日に逝去された写真史家・金子隆一氏の業績を尊び、一周忌に合わせ氏の第一次資料を展示致します。会場では、日本写真史を掘り下げ、構築し、教育普及し、写真家を育成した金子隆一の半生を年代ごとに紹介します。

2万点にも上る写真集、写真雑誌の収集家としても著名であった金子の書庫を、写真家・潮田登久子が撮影したプリントも併せて展示いたします。

○日本写真史の重要な未公開資料を多数展示

学生時代に関わった全日本学生写真連盟の活動、1970年代の自主ギャラリー運動、開館準備から長年勤めた東京都写真美術館での企画等、記録写真、自身の手による写真、著作や関わった印刷物やパンフレット、カタログ、書簡等の未公開を多数含む資料展示により日本写真史の研究における氏の足取りをたどります。

美術、写真書籍を専門に扱うブックショップ、NADiff a/p/a/r/t では、金子執筆の論文やエッセイが収録された貴重な書籍はもとより、金子推薦の関連書籍を中心に揃え、改めて日本近現代写真史を知るための本や重要な写真集を紹介致します。

○展覧会カタログ

展覧会と同名のカタログも会期にあわせて出版予定です。

金子隆一について：

1948 年、東京生まれ。父の影響で早くから写真に興味をおぼえ、大学時代に全日本学生写真連盟に加盟、社会的テーマでの集団撮影に参加する。1970 年代自主写真ギャラリー運動に身を投じ、写真史家として活動に関わる。1980 年代、小学館の『日本写真全集』全 12 巻の調査員として、近代写真の発掘と調査を全国に渡って行う。その後、東京都写真美術館開館準備に関わる。同美術館開館後は、専門調査員を長年務め多くの展覧会の企画を手がけた。金子は日本の写真集と写真雑誌の収集家としても国際的に著名。戦前戦後の日本の写真集や写真雑誌を調査することで、日本写真史を詳しく検証した。関わった出版企画として、『日本写真史の至宝』（国書刊行会）、『復刻版 NIPPON』（国書刊行会）等。著作として『日本は写真集の国である』（粹出版社）他。

金子隆一追悼展发起人代表：築地仁（写真家）

金子隆一追悼展发起人：飯沢耕太郎（写真評論家）、伊藤俊治（美術史家／東京藝術大学名誉教授）、伊奈英次（東京総合写真専門学校校長／写真家）、笠原美智子（石橋財団アーティゾン美術館副館長）、島尾伸三（写真家、作家）、関次和子（東京都写真美術館事業企画課長）、高橋則英（日本写真芸術学会会長）、竹葉丈（名古屋市美術館学芸員）、田沼武能（一般社団法人日本写真著作権協会会長）、中森康文（テート、国際美術〈写真〉シニア・キュレーター）、丹羽晴美（東京都現代美術館事業企画課長 学芸員）、松本徳彦（公益社団法人日本写真協会副会長）

協力：金子節子

主催：金子隆一追悼展実行委員会

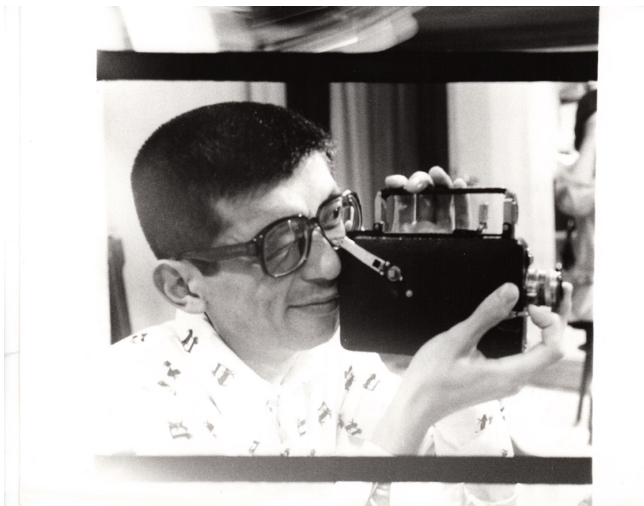
資料請求お問合せ：

MEM（担当：高橋瑞穂） Tel. 03-6459-3205 [takahashi@mem-inc.jp](mailto:takahashi@mem-inc.jp)

【プレス画像】



撮影：鷺尾和彦



1970年代半ば～1980年代前半頃の金子隆一、撮影：島尾伸三



金子隆一《Library》制作年不詳、ゼラチン・シルバー・プリント、145×225mm  
自身の書庫を撮影した写真作品